

No.20-49
2020年10月15日

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

安保中央・常任幹事会(10/14)

大軍拡・日米軍事一体化許さない運動を 地位協定抜本改定署名 11月20日集約 25日提出

安保破棄中央実行委員会は10月14日、東京・文京区の全労連会館で常任幹事会をオンラインを兼ねて開き、当面のとりくみについて確認しました。

報告した東森英男事務局長は、菅政権による日本学術会議新会員の任命拒否について、学術研究の独立性と学問の自由が蹂躪されたと批判し、その背景に安保法制による大軍拡と日米軍事一体化があると指摘し、歴史的暴挙を許さない運動の強化を訴えました。

また、辺野古新基地の設計変更申請を不許可とするよう求める沖縄県知事あての意見書について安保破棄中央実行委員会として12都道府県1548通、9団体1138通に達したと報告。都道府県と中央団体のダブリを除いても2千通以上を集約し、沖縄県が受け付けた1万8904通の約1割を担ったと報告しました。



当面のとりくみでは、日米地位協定抜本改定を求める署名を11月20日集約でとりくむこと、11月21日の日本平和大会、11月22日の東京・横田集会、総がかり行動実行委員会できりくむ11月25日の日米地位協定シンポジウムの成功などを提起。

討論では、鹿児島・馬毛島の軍事基地化反対への連帯のとりくみの重要性などが訴えられました。



辺野古の美しい海をみんなで守る

安保破棄中央実行委員会が10月15日現在集約できたものだけで12都道府県1548通、9団体1138通の送付が確認されています。

県は今後、意見書数の確定値が分かり次第公表の予定です。

沖縄県は10月9日、名護市の辺野古新基地建設をめぐる、防衛省沖繩防衛局が県に4月提出した設計変更申請書に対しての縦覧期間中、9月8日(28日)に全国から寄

辺野古
設計変更

全国から意見書1万8904通
安保中央確認 2千通超す

お知らせ

安保破棄中央・東京実行委員会 10月の宣伝行動
10月23日(金)12時~13時 場所 新宿駅西口

「かわいいものだから触りたくない」

先日、話を聞いた元消防隊員が漏らしたひと言に合点がいった▼米軍普天間飛行場で4月、格納庫から人体に有害な有機フッ素化合物PFOS(ペーホス)を含む泡消火剤が大量に漏出した事故。基地外の回収作業を宜野湾市消防局に丸投げした米軍の対応を聞いた時のことだ▼泡消火剤に接触した海兵隊員3人が頭痛や吐き気、呼吸困難、かゆみを発生していたことが軍の報告書で明らかになった。接触したと同時に異変を感じた「激しい頭痛が始まり、呼吸が困難になった」生々しい証言から泡消火剤の危険性が容易に想像できる▼原因は米兵らによるパーベキュー。6年前にもパーベキューが原因で濾出事故が起きていたことも発覚。再発防止策が徹底されていない証左で、あきれる▼泡消火剤は隣接することも園の園舎や遊具にも付着。綿が飛んでいる」と騒いでいた子どもたちが触っていたらと考えるとゾッとします▼回収作業で泡消火剤に触れた市消防隊員12人のうち半数が身体への影響に不安がある」と答えている。体調の以上を訴えた隊員はいなかったが、不安は簡単にはぬぐえないはず。今度こそ再発防止の徹底を。まず、ペーホスを含まない消火剤への交換を急いでほしい。

石川亮太

沖縄タイムス10月3日付のコラム「大弦小弦」より